

特定非営利活動法人 *it*SMF Japan

アニュアルレポート
2010



2011年5月24日

目次

- 1) *itSMF* Japan 理事長挨拶
- 2) 2010 年度事業報告
- 3) 2010 年度決算報告
- 4) 2011 年度理事・監事
- 5) 2011 年度事業計画
- 6) 2011 年度予算

1. *it*SMF Japan 理事長挨拶

itSMF Japan 理事長挨拶

特定非営利活動法人 itSMF Japan
理事長 富田 修二

このたびの東日本大震災で被災された地域の皆様には、心からお見舞い申し上げます。地震、津波により、お亡くなりになれました方々に、心からのご冥福をお祈り申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

このような、予期しにくい巨大な自然災害の経験をもとに、itSMF Japan は、サービスマネジメント、IT システムのコンテンジェンシプランとその実行、デザスタリカバリプログラムなどについて、議論する場を提供するとともに、その結果を会員の皆様とシェアできるような活動を進めてまいります。

2010 年度は、リーマンショックからの回復が軌道にのったこと、新興国の成長のおかげで、日本企業は相当な成長、回復をとげましたが、企業の多国籍化、国内投資よりも海外ということを受け、若年層を中心とした失業率の回復は不満足であり、その対策が喫緊の課題です。

2010 年度の活動状況の報告と、このような状況をふまえた 2011 年度の活動計画を述べさせていただきます。

2010 年度は、ITIL® V3 元年と名付け、以下のような活動を行いました。

1. ITIL® V3 SS,SD,ST,SO,CSI プロセスでの、サービス戦略の策定と実行への遷移およびライフサイクル・マネジメントに力点を置いたセミナーを開催しました。
昨年 5 月には、日本情報処理開発協会 (JIPDEC: 現・日本情報経済社会推進協会)、11 月には、PMI 日本支部、今年 3 月には、APMG International および試験・研修事業者と共同でセミナーを開催し、会員、非会員の方々にタイムリな話題を提供し、かつ、他の組織への ITIL® V3 の浸透をはかれました。
また、地方会員の便、セミナー等に参加できなかった会員の方々のための、itSMF Japan のホームページ上に WEB セミナーの仕組みを導入し、すでに、4 件を提供しております。
2. 2010 年 7 月 22 日(木)、23 日(金)の 2 日間にわたり、第 7 回 itSMF Japan コンファレンス/itSMF Japan EXPO を『ビジネスを成功させる運用管理の最適化 ～クラウド時代に真価が問われるサービスマネジメント～』をテーマとし、インターネット

/IT 会社の参加を得、活発な議論を行いました。また、EXPO 会場の広さの面のサービスは若干低下しましたが、多くのスポンサ企業の支援をいただき、黒字運営を行うことができました。この場をかりて、お礼申し上げます。

3. ITIL® V3 の実務者のための資格および上級資格への過程であるインターミディエイト資格試験(ケーパビリティ)を日本語化し、APMG International を通し、試験事業者に提供しました。ご協力いただいたレビューの方にお礼申し上げます。
また、V2 時代より、日本は、ファンデーション の資格者数に対する上級のマネージャ資格者数が、米国、英国に比較し極端に低く、この底上げのためのセミナー APMG International の援助を受け開催し、一定の評価を受けました。
しかし、IT サービスマネジメントの普及促進の観点では、上級資格者の増強とユーザ企業、ベンダ企業での ITIL® V3 の導入は両輪をなすものであり、人材育成という面からより一層の努力が必要と考えています。

2011 年度活動としては、

1. 昨年に引き続きコンファレンス、セミナー、分科会、White Paper 作成などの活動を通じて、会員の皆様への ITIL® V3 の浸透のための情報提供、意見交換の場の提供を行います。とりわけ、ユーザ事例の紹介および分科会情報の活用が引き続き重要となります。
2. 日本発信の情報として、特に、クラウド、コンテンツシプラン、デザスタリカバリなどでのノウハウを itSMF International を通し、日本および海外で出版することにより、日本のノウハウをワールドワイドに提供するとともに、itSMF Japan の出版事業収入増に結びつけたいと考えます。
3. 昨年度は、特例として、一年間ユーザ会員会費無料のキャンペーンを行い、一定の成果をあげました。今年度のこのプログラムの延長を含め、ユーザ会員増のためのプログラムを開発します。

余剰金は微増しているも、収入源の会費の微減、書籍の売り上げの低下、コンファレンス収支の黒字化の定着が読めないことなど、財務状況は楽観を許しません。

財務状況を公開して会員の皆様のご提案をいただくとともに、itSMF Japan 内での努力を継続いたします。

また、活動者の世代交代が急務であり、理事企業、会員の皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

※ ITIL® is a Registered Trade Mark of the Office of Government Commerce in the United Kingdom and other countries.

2. 2010 年度 事業報告

会員に関する報告

2010 年度活動:

2010 年度は、景気後退の影響を受け会員数、会費収入とも減少しました。2010 年度の会費収入は、予算比 92.51%の結果でした。会員増強に関する活動として、2010 年度は、会員サービスの充実、国内プロモーションの一環としての活動、事業化推進委員会での施策の検討を行いました。

1. 会員構成について

➤2010 年度末の会員状況は、会員数 469 会員、
会員数延べは 1832 名となっております。(2011/4/1)

個人会員……………184
 団体会員(5 人口)…227
 団体会員(10 人口)…33
 団体会員(20 人口)…6
 団体会員(30 人口)…2
 グローバル会員……………3
 特別会員……………8
 学生会員……………6
 賛助会員……………5 口

2. 会員数動向

➤会員について

特別会員 1 件(名古屋港管理組合) の入会がありました。

	2010 年度 入会口数	2010 年度 退会口数
グローバル会員	0	1
個人会員	47	54
学生会員	3	2
団体会員(5 人口)	25	27
団体会員(10 人口)	0	1
団体会員(20 人口)	0	0
団体会員(30 人口)	0	0
特別会員	1	0
賛助会員	5	0

(事業化推進グループ) 事業化推進委員会活動報告

itSMF Japan のさらなる活性化と経営基盤の安定化、IT サービスマネジメントの普及促進のため、新規事業の検討と実施をしました。

2010 年度活動:

- 出版事業と共同での米国でのITIL® V3 事例集作成
- セミナー業務と共同で PMI 日本支部との合同シンポジウムの開催(11 月 26 日)
- 新規参加ユーザ企業に対する一年間会費無料キャンペーンの実施
5 人口団体会員 8 団体および個人会員 9 名の入会がありました。

* 2010 年度は、中期計画プロジェクトを事業化推進委員会の一環として実施しました。

(事業化推進グループ) 出版業務に関する事業報告

出版業務では、2011年3月までにITサービスマネジメント関連翻訳書籍1冊の出版を実施しました。

2010年度活動:

1. 書籍の出版

書籍名	発売日
ITIL®V3 ファンデーション	2010年7月

2. 書籍の販売

2010年度出荷実績 (2010年4月～2011年3月)

出版社	書籍名	販売数
iSMF UK	ITサービスマネジメント	115
	ITサービスマネジメント用語集	92
	ITサービスマネジメント用語集 V3版	608
	IT Service Management	3
	Dictionary of IT Service Management	1
	Planning to Implement Service Manage	3
	Security Management	2
	Application Management	2
	ICT Infrastructure Management	3
	サービスサポート	50
	サービスデリバリー	54
	サービスマネジメント導入計画	18
	ビジネスの観点	20
	アプリケーション管理	12
ICTインフラストラクチャ管理	16	
TSO	サービスストラテジ	6
	サービスデザイン	15
	サービストランジション	14
	サービスオペレーション	18
	継続的サービス改善	9
	V.3日本語版 5冊セット	264(X5)

出版社	書籍名	販売数
TSO	ITIL®V3 ファンデーションハンドブック	871
	ITIL®V3 ファンデーション・ハンドブック・セット	152
	Service Stragety	0
	Service Design	0
	Service Transition	0
	Service Operation	0
	Continual Service Improvement	0
	V.3 英語版 5冊セット	9(x5)
	サービスサポート PDF 日本語版	4
	サービスデリバリ PDF 日本語版	4
	サービスストラテジ PDF 日本語版	0
	サービスデザイン PDF 日本語版	1
	サービストランジション PDF 日本語版	1
	サービスオペレーション PDF 日本語版	1
	継続的サービス改善 PDF 日本語版	3
V.3 日本語版 PDF5冊セット	49(x5)	
VHP	ITIL®入門	10
	ITIL®ファンデーション	46
	ISO/IEC 20000 ポケットガイド	132
	IT マネジメントのためのフレームワーク	46
	ITIL®V3 ポケットガイド	1,068
	ITIL®V3 ファンデーション	625
	合計	4,347

3. 海外事例収集活動

2010年7月、USAでのITIL®導入事例の調査報告書を発行しました。

(会員サービス推進グループ)
コンファレンス業務に関する事業報告

第7回 *itSMF* Japan コンファレンスにつき、以下のように実施しました

概要

- 名称 第7回 *itSMF* Japan コンファレンス
(同時開催) *itSMF* Japan EXPO
- テーマ クラウド時代に真価が問われるサービスマネジメント
- 開催日時 2010年7月22日(木)~23日(金) <2日間>
- 会場 日経ホール・JAビル<大手町>
- 参加費
 - *itSMF* Japan コンファレンス(有料講演)
会員:10,000円[税込]、会員早期割引:8,000円[税込]
一般:24,000円[税込]、一般早期割引:20,000円[税込]、
 - *itSMF* Japan EXPO(展示会・無償セミナー) 無料
- 後援 JIPDEC、ITGI、JUSE、JUAS、PMI、ITCA、ISACA、IT協会、IPA、JACB
(順不同)
- 来場者数
1,056名(*itSMF* Japan コンファレンス)
382名(*itSMF* Japan EXPO)
- スポンサー
 - プラチナスponsor 2社
 - ゴールドスponsor 9社
 - シルバープラススponsor 6社
 - シルバースponsor 4社
 - ブロンズスponsor 10社

計 31社

収入

スポンサー収入、入場者収入の合計 ￥51,421,500

支出

コンファレンス費用合計 ￥36,939,682

活動詳細:

(1) itSMF Japan 第26回セミナー

関連団体と連携したセミナーの第2回目として、財団法人 日本情報処理開発協会 (JIPDEC)と共催セミナーを開催しました。今回のセミナーは、ISO/IEC 20000 を特集し、ISO/IEC 20000 シリーズの制定や改版の国際的な推進役でありISO /IEC JTC1 SC7 WG25 メンバの Shirley Lacy 氏と、エディタの Lynda Cooper 氏が、内外の ISO/IEC 20000 をとりまく最新動向を講演し、好評を博しました。お二人は、新潟で行われた ISO/IEC 20000 の国際会議に出席するために来日されました。ユーザ事例として KDDI 社の木村氏が6ヶ月で ISO/IEC 20000 を導入された事例を発表しました。最後に JIPDEC の ITSMS 技術専門部会の活動内容を発表しました。

◇日時:2010年5月31日 13:30~17:00

◇場所:日経カンファレンスルーム(大手町)

◇参加者:208名

・プログラム

itSMF Japan 第26回セミナー			
13:30~ 14:00	ご挨拶	itSMF Japan 理事長 富田 修二 JIPDEC 副センター長 高取 敏夫氏	
14:00~ 15:30	<海外特別講演> 『ISO/IEC20000 シリーズの戦略と世界の状況』	Shirley Lacy 氏 (ISO/IEC JTC1 SC7 WG25 convenor)	ISO/IEC20000 シリーズの簡単な履歴と、サービスマネジメントにおけるサービス改善、アセスメント、専門家の認定に、サービスマネジメント 20000 シリーズをどう利用するかを説明
	<海外特別講演> 『20000 パート1 改版と今後の展望』	Lynda Cooper 氏 (同、20000-1 Editor)	ISO/IEC20000 パート1の次版が 2011 年に発行される予定であり、そこで何が変わり、なぜ変わったか、そして組織が新しい版に向けてどのように準備できるかを説明
15:40~ 16:20	<ユーザ事例講演> 『ITSMS 運用へのチャレンジ!!』	KDDI株式会社 運用統括本部 サービス運用本部 木村正明氏	KDDI様での ISO20000 の認証取得事例について発表
16:20~ 17:00	<技術専門部会報告> 『JIPDEC ITSMS 技術専門部会活動報告』	(財)日本情報処理開発協会 ITSMS 技術専門部会主査 黒崎 寛之氏	JIPDEC ITSMS 適合性評価制度技術専門部会での ISO/IEC 20000 及び ITSMS 適合性評価制度の普及に向けたガイドの作成に取り組んだ活動について説明

(2) itSMF Japan / PMI 日本支部共催シンポジウム

関連団体と連携したセミナーの第3回目として、PMI日本支部様と共催シンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムは、「ITライフサイクル・マネジメントを真剣に考え

る～プロジェクトマネジメントとITサービスマネジメントの融合」をテーマに行い、参加者から高い評価を得ました。「今後も継続的に開催して欲しい」などのアンケートへのコメントも多く、次回開催を検討しています。

◇日時:2010年11月26日 13:00～18:20

◇場所:慶應義塾大学日吉校舎藤原洋記念ホール

◇参加者:258名

・プログラム

itSMF Japan / PMI 日本シム共催シンポジウム			
13:00～ 13:30	<主催者挨拶>	PMI 日本支部 会長 神庭 弘年氏 itSMF Japan 理事長 富田 修二	
13:30～ 14:30	<基調講演> 『サービスイノベーションとサービスサイエンス』	東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科教授 日高 一義氏	サービスサイエンスは、サービスを科学する対象として捕らえ、その生産性と質を向上させ、イノベーションを実現する為の学問を確立する試みと言える。サービスイノベーションとサービスサイエンスの関係に関して講演
14:40～ 15:40	<PMI 講演> 『慶應 SDM～プロジェクトリーダー育成への挑戦』	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科准教授 PMI 日本支部理事 当麻 哲哉氏	「システムデザイン・マネジメント(SDM)」を取り入れた新しいプロジェクトマネジメント手法により、次世代のリーダー育成に挑戦する慶應義塾大学大学院 SDM 研究科のカリキュラムを紹介
15:40～ 16:40	<ユーザ事例講演> 『損保ジャパンにおける運用サービスの現状と今後の課題』	株式会社 損保ジャパン・システムソリューション システム基盤第二グループリーダー 井場 隆史氏	ますます複雑化するシステム環境に対応して、システム運用は高度化が求められている。ITIL®を活用した運用サービスの改善に取り組んでいるが、その現状と今後の課題について、SLA や運用受け入れへの取り組み、大規模開発プロジェクトとの接点といった観点とあわせて紹介
16:50～ 18:20	パネルディスカッション	モデラ:PMI 日本支部 会長 神庭 弘年氏 パネリスト:PMI 日本支部 理事 当麻 哲哉氏、理事 平石 謙治氏 itSMF Japan 副理事長 西野 弘 株式会社損保ジャパン・システムソリューション 井場 隆史氏	

(3) itSMF Japan 第6回ミニセミナー

サービスデザイン研究分科会『和風サービスデザイン』と題し、寸劇を交えた講演、パネルディスカッション、質疑応答を行いました。参加者へのアンケートから「成果を伝えようという意欲をととても感じた」「実際の運用が盛り込まれ役に立った」などの声もありました。

◇日時:2010年12月10日 18:20~20:20

◇場所:高輪区民センター 第1集会室

◇参加者:37名

・プログラム

18:20~ 18:30	『ご挨拶』	itSMFJapan 理事 明路伸夫	
18:30~ 19:55	<サービスデザイン研究分 科会> 『和風サービスデザ イン』 ~伝えたい!我々の ベストプラクティス! ~	伊藤忠テクノリユーショ ンズ株式会社 尾留川 昌平氏 日本ヒューレット・パッ カード株式会社 須谷 聡史氏 個人会員 坪田 誠氏 三井物産セキュアディレ クション株式会社 豊口 忍氏	サービスデザインは、IT サービスマネジメントの 設計・構築に関して多くの示唆を与えてくれる が、欧米におけるIT サービスマネジメントが背 景にあり、日本における実践的な活用を行う場 合には、工夫が必要であると考えた。本セミナー は、これまでの研究成果物について、実践イメ ージを交えて、わかりやすく、解説した。2年間 のサービスデザイン研究分科会の集大成として の我々のベストプラクティスを説明
19:55~ 20:20	パネルディスカッショ ンおよび質疑応答		

(4) itSMF Japan 第28回セミナー

ITIL® V3 資格・研修にフォーカスした内容での講演を実施しました。セミナー開催にあたっては、協賛3社と後援7社の協力を得ました。

参加者の皆様からは、これまでと違った観点でのセミナーとなり、有意義であったとの声をいただきました。

◇日時:2011年2月21日 14:00~17:15

◇場所:笹川記念会館(4F 第1・2合同)

◇参加者:138名

・プログラム

itSMF Japan 第28回セミナー			
14:00~ 14:05	<ご挨拶>	itSMF Japan 理事長 富田 修二	
14:05~ 14:55	『人材育成のあるべき姿~「人材育成アーキテクチャ」の活用と意義』	株式会社ラーニング・アーキテクチャ研究所 宮沢 修二氏	人材育成を行うに当たり、情報化投資を効果的に行うことが、多くの経営者、CIOの悩みとされる中で、情報システムの本来の目的である「必要な情報を、必要なタイミングで、必要な人に提供する」という仕組みづくりが重要であるとともに、情報を利活用して投資価値を最大化することも必要。

			そのための広義の IT 人材をどのように育成するか、そのためのアーキテクチャをどのように設計するかということについて説明
14:55～ 15:25	『IT サービスマネジメントからの人材育成』	EXIN Japan 中川 悦子氏	ITIL®V3 や ITIL®V3 資格の概要とワールドワイドでの動向について説明
14:45～ 16:35	『サービス指向時代に求められる IT 人材像とは ～アウトソーシング時代の ITIL®V3 と人材育成～』	日本アイ・ビー・エム・システムズ・エンジニアリング株式会社 岩村 郁雄氏	企業にとって最適なサービス・ソーシング戦略を立案し適用することのできる人材として、Expert 資格を目標とした CIO まで見据えた人材育成と、企業内の現場のプロとして、Intermediate 資格を目標に ITSM の特定分野の第一人者を育成するために、ITIL® V3 をどのように活用できるのか、について説明
16:35～ 17:15	『ITIL®V3 資格と ITSS のマップを通じた ITSM 資格の魅力』	株式会社プロシード 河合 直子氏	企業内の IT 人材育成を担う皆様方に、ITIL®V3 資格の内容と、ITSS 等の既存のスキル標準や、人材育成フレームワークとの関係の説明と ITSM 資格の魅力について説明

(5) WEB セミナ

➤ 第1回 WEB セミナ

- 「ISO/IEC 20000 シリーズ戦略および全世界における状況」
ISO/IEC JTC1 SC7 WG25 convenor
シャーリー・レイシー氏

➤ 第2回 WEB セミナ

- 「ISO/IEC 20000 第一部 次版について」
ISO/IEC JTC1 SC7 WG25 convenor、20000-1 Editor
リンダ・クーパー氏

➤ 第3回 WEB セミナ

- 「ITIL® V3 認定資格スキーム 過去・現在・未来」
The APM Group Limited, CEO
リチャード・フェーロー氏

➤ 第4回 WEB セミナ

- 「運用サービスの現状と今後の課題」
株式会社損保ジャパン・システムソリューション
システム基盤第二グループリーダー
井場 隆史氏

(会員サービス推進グループ) 分科会業務に関する事業報告

分科会活動の目的は、会員の皆様が日々直面するITサービスマネジメントにおける様々な課題や疑問、新技術の研究などITIL®に関連したテーマを会員の皆様が選定し、会員の皆様自身が調査、研究を行い、会員の皆様自身へ情報発信を行い、ITサービスマネジメントの浸透に寄与することです。

2010年度は、新規に6分科会が設立され、昨年から継続して活動していた4分科会とあわせて活発に研究を行っております。

これまでも、ユーザ企業の会員や個人会員の方々が分科会により参加しやすいように、分科会メンバ募集時に周知期間を設けるなどのプロセス改善を行ってまいりましたが、2010年9月の「継続的サービス改善(CSI)分科会」では正式なメンバ募集の前に、発起人の方々による分科会の説明会を開催し、分科会が目指す研究内容や進め方を十分ご理解いただいた上で、参加していただくという新たな試みも行いました。2日間の説明会には40名の会員の方が参加され、そのうち36名の方が分科会メンバとして活動していただいております。あらためて、会員の皆様の分科会活動に対する関心の高さが示されたものと思っております。

さらに、2010年12月に活動を開始した「プログラムマネジメント研究分科会」では、プロジェクトマネジメント協会(PMI)日本支部のメンバの方々に特別に分科会へご参加いただき、共同で研究するという大変興味深い、新たな試みも開始しました。

ユーザ企業の会員や個人会員の方がより参加し易い仕掛けを組み入れ、分科会活動がより活性化するように努めてまいりました。

2010年度活動:

1. 新規分科会の設立

- 継続的サービス改善(CSI)分科会(2010年12月設立)
- IT戦略とポートフォリオ分科会(2010年12月設立)
- プログラムマネジメント研究分科会(2011年2月設立)
- サービス妥当性確認研究分科会(2011年2月設立)
- インシデント・問題管理プロセス研究分科会(2011年4月設立)
- ビジネス貢献分科会(2011年4月設立)

2. 継続活動分科会

- サービスデザイン研究分科会(2010年度活動終了)
- 教育・研修分科会(2010年度活動終了)
- SLM分科会(2010年度活動終了)
- 「公共団体、教育機関におけるITIL®を中心としたITガバナンス導入研究会」分科会

3. 分科会の活動推進・支援

- 各分科会の座長/副座長参加の座長会開催
・第44回座長会～第48回座長会開催

4. 分科会活動内容・成果の報告/講演

- 第7回 *itSMF* Japanコンファレンス(2010年7月22日～23日)にて、下記の分科会が活動報告を実施しました。
 - ・ 教育・研修分科会
 - ・ SLM分科会
 - ・ サービス・オペレーション分科会
 - ・ Value Creation分科会
 - ・ サービスデザイン研究分科会
- 第6回ミニセミナー(2010年12月10日)にて、下記の分科会が活動報告を実施しました。
 - ・ サービスデザイン研究分科会

(会員サービス推進グループ)

会報誌業務に関する事業報告

2010年度は、会員の皆様の交流促進と情報共有を目的にした会報誌「Newsletter」を4号発行しました。

各号には、会員や JIPDEC、JEITA など他団体からの寄稿、itSMF UK 会報誌

“serviceTALK”の翻訳記事などを掲載いたしました。また、itSMF Japan の活動報告として、各分科会の活動紹介、 세미나・コンファレンスの開催報告、itSMF International 年次総会報告、支部リーダ会議報告をいたしました。itSMF Japan コンファレンスの場では、「第3回 itSMF Japan Newsletter Contribution Award」に対する表彰を実施しました。

2010年度活動:

1. 発行状況

会報誌「ニュースレター」発行状況

(4回発行。また、2011年4月号も発行済み)

- 2010年4月号発行
- 2010年7月号発行
- 2010年10月号発行
- 2011年1月号発行

主要掲載記事:

2010年4月号

書籍紹介	itSMF Japan・書籍出版担当
第7回 itSMF Japan コンファレンス/EXP02010	itSMF Japan コンファレンス担当
第23・24回 세미나報告	itSMF Japan・ 세미나担当
サービス・カタログを活用していますか?	from serviceTALK
変更のインパクトを管理する構成管理システム	from serviceTALK
ITIL®20年：これまでとこれから	from serviceTALK
ミレミアム・バグ - サービスマネジメントの教訓	from serviceTALK
関西支部活動報告	itSMF Japan 関西支部
寄稿 SLA と ITIL®に関する調査報告	JEITA ソリューションサービス事業委員会 SLA/SLM 専門委員会
新任理事挨拶	itSMF Japan 理事 渡辺 悟
新任理事挨拶	itSMF Japan 理事 渡部 芳邦
itSMF Japan 第7回通常総会のご案内	itSMF Japan 事務局
「第3回 itSMF Japan Newsletter Contribution Award」募集のお知らせ	itSMF Japan 事務局

2010年7月号

第7回 /tSMF Japan コンファレンス/EXPO 直前情報	/tSMF Japan コンファレンス担当
第26回 세미나報告	/tSMF Japan・세미나担当
会員寄稿 サービス・カルチャの浸透から始めよう ～「共通の価値観を持つことがサービスマネジメントのスタート地点～」	小淵 淳二 氏
会員寄稿 これからの IT サービスマネジメント ～運用から顧客ビジネスの成功のための戦略へ～	小島 章教 氏
会員寄稿 ヒューマンエラーとサービスオペレーション ～ヒヤリハット活動と問題管理・インシデント管理～	小澤 一友 氏
会員寄稿 ITIL® 人材育成を考える ～ITIL® 試験に合格したい/させたいですか?～	最上 千佳子 氏
会員寄稿 サービスマネジメントの活用法 ～家庭編～	月峯 美香子 氏
クラウド・コンピューティング：サービスマネジメントに関する疑問点	from serviceTALK
成功するビジネス・サービス・カタログの作成	from serviceTALK
寄稿 ISO/IEC 20000 の導入状況と今後 ～クラウド時代に欠かせない ITSMS～	JIPDEC ITSMS 技術専門部会
IT サービスマネジメント資格情報アップデート	EXIN Japan
新任理事挨拶	/tSMF Japan 理事 佐久間 洋
新任理事挨拶	/tSMF Japan 理事 徳地 隆弘
関西支部活動報告	/tSMF Japan 関西支部
/tSMF Japan 第7回通常総会報告	/tSMF Japan 事務局

2010年10月号

新刊書籍紹介 「ITIL® V3 ファンデーション」	/tSMF Japan 書籍出版担当
第7回 /tSMF コンファレンス/EXPO 報告	/tSMF Japan コンファレンス担当
第3回 /tSMF Japan Newsletter Contribution Award 結果発表	/tSMF Japan 事務局
会員寄稿 マネジメントオフィスの設置効果の考察	前田 隆 氏
会員寄稿 設計フェーズから始めるサービスレベル管理	梶原 智実 氏
【/tSMF International Whitepaper Competition 受賞作品】 エンドToEndのサービス報告に対する シンプルで低コストではあるが革新的なアプローチ	from serviceTALK
サービス改善プログラム：ITIL®という名の妖精など存在しない	from serviceTALK
サービス・バリュー・チェーン： クラウド・コンピューティングにガバナンスを	from serviceTALK
ITIL®・COBIT・ISO/IEC 20000 資格の比較	from serviceTALK
関西支部活動報告	/tSMF Japan 関西支部
第4回 /tSMF Japan Newsletter Contribution Award 募集	/tSMF Japan 事務局

2011年1月号

理事長の新年のご挨拶	/tSMF Japan 理事長 富田 修二
/tSMF International 年次総会・支部リーダ会議報告	/tSMF Japan 副理事長 西野 弘
会員寄稿 /tSMF UK Conference 2010 London 参加レポート	東京海上日動システムズ株式会社 小川 創也 氏・山田 登志朗 氏
サービス・ポートフォリオ管理：不況後の需要に対応するための鍵	from serviceTALK
ITIL®と伝統的マネジメントの融合	from serviceTALK
/tSMF Japan/PMI 日本支部共催セミナー報告	/tSMF Japan セミナ担当
関西支部活動報告	/tSMF Japan 関西支部
第4回 /tSMF Japan Newsletter Contribution Award 募集	/tSMF Japan 事務局

(会員サービス推進グループ) WEB業務に関する事業報告

WEB 業務は、itSMF Japan 公式サイトを運営し、各種情報発信、情報交流に関するインフラを提供してきました。

2010 年度の主な活動内容は、下記の通りです。

2010 年度活動:

1. White Paper ページの新設
 - 会員への役に立つ情報提供を狙いとして、White Paper ページを新設しました。
2. WEB セミナページの新設
 - 過去に開催し高評であったセミナーの内容を、参加できなかった会員がいつでも視聴できるように、WEB セミナページを新設しました。
3. ITIL®ページの更新
 - 「ITIL®とは」の内容を ITIL® V2 から ITIL® V3 に更新しました。
4. itSMF Japan サイトの運用とメンテナンス
 - 各種お知らせの掲載
 - WEB 広告の掲載・更新
5. イベント担当との連携
 - コンファレンスやセミナーなど各種イベントの案内と申し込みページ作成
 - コンファレンスやセミナーの講演内容資料配布
6. 分科会担当との連携
 - 各分科会の活動報告
 - 新規分科会立ち上げ時の募集ページ作成
7. 出版担当との連携
 - 新規 V3 書籍販売ページの追加
 - 出版活動の支援
8. 会報誌担当との連携
 - 会報誌の掲載

(会員サービス推進グループ) 試験業務に関する事業報告

2010 年度も引き続き APMG、EXIN、itSMF International などと密な連携を行い ITIL® の普及と会員の利益に資する活動を行いました。

2010 年度活動:

1. 2009 年より行ってきた APMG と ITIL® V3 インターミディエイト試験の日本語化を継続しました。これにより、ケーパビリティストリームの日本語化は完了し、MALC も 10 月より日本語試験の本番が開始されました。
ローカライゼーションに伴う分かり易さについても積極的に取り組んでいます。
2. 上記機関・団体との以下のような連携を行いました。
 - コンファレンスの APMG 代表の講演および配布資料(V3 資格スキーム)の日本語化支援
 - V3 資格・試験タスクフォース活動の企画・実施および資格セミナー(2/21)実施支援
 - 公式認定機関の APMG に日本のニーズのフィードバックなどを実施
3. 試験制度についての最新動向のキャッチと、会員へのフィードバックとして、itSMF Japan 公式ホームページでの情報提供を行いました。
 - インターミディエイト試験日本語化スケジュールの案内など
 - ・APMG よりインターミディエイト試験の翻訳計画を発表(4/21)
 - ・APMG よりインターミディエイト試験の日本語版提供予定を発表(6/30)
 - ・OGC より ITIL® V3 日本語版資格スキームのパンフレット提示(10/28)
 - ・APMG より Expert 資格への試験(MALC)の日本語版正式リリース発表(10/28)

(会員サービス推進グループ) 関西支部業務に関する事業報告

関西支部は、関西エリアでの itSMF Japan 普及活動を目的としてセミナーの開催などを実施しました。

2010 年度活動

1. イベント活動

➤ itSMF Japan セミナを 2 回開催

(1) itSMF Japan 第 27 回セミナー(関西)

第 27 回セミナー(関西)は、コンファレンス報告、教育コース紹介、ユーザ事例をテーマに実施

◇日 時:2010 年 10 月 25 日(月) 13:30~16:30

◇場 所:TKP 大阪梅田ビジネスセンター (カンファレンス 16B)

◇参加者:33 名

・プログラム

itSMF Japan 第 27 回セミナー(関西)			
13:30 ~13:35	ご挨拶	itSMF Japan 理事 荒本和彦	
13:35 ~13:55	『第 7 回 itSMF Japan コンファレンス報告』	itSMF Japan 安岡 恵一	第 7 回 itSMF Japan コンファレンス(2010.7.22/23)の実施報告と、IT サービスマネジメントの動向を説明
13:55 ~14:55	<教育コース> 『インターミディエイト Capability RCV コース概説』	株式会社プロシード 河合 直子 氏	ITIL®V.3 インターミディエイト研修「リリース、コントロールと妥当性確認」の概要紹介
休憩 (15 分)			
15:10 ~ 16:10	<ユーザ事例講演> 『加古川市における ITIL®導入の取組』	加古川市企画部 IT 推進課情報政策係 係長 三和 宏幸 氏	地方自治体では厳しい財政状況の中、住民サービスの向上と同時に業務コスト(ITコスト)削減が求められており、実現のために、現行の業務(システム)を評価し、業務の合理化やシステムの規模(機能)の適性化、アウトソーシングの活用などにより、コストを最小限に抑えてサービス効果を最大限に引き出していく必要がある。。平成22年度に行った加古川市におけるITSM、ITIL®への取り組みについて説明

(2) itSMF Japan 第29回セミナー(関西)

第29回セミナー(関西)は、教育コース、ユーザ事例をテーマに実施

◇日時:2011年3月14日(月) 14:30~16:45

◇場所:毎日インテシオ 大会議室 D+E

◇参加者:47名

・プログラム

itSMF Japan 第29回セミナー(関西)			
14:30 ~ 14:35	ご挨拶	itSMF Japan 理事 荒本和彦	
14:35 ~ 15:35	<教育関連> ITIL®V3 インターミディエイト 運用サポートおよび分析(OSA)概要	日本ヒューレット・パッカート株式会社 テクノロジーコンサルティング統括本部 ソリューション本部 教育サービス部 森田 太志 氏	V3 インターミディエイト研修 「運用サポートおよび分析」コースの概要、ファンクションとの違い、求められるスキルなどについて紹介
休憩 (10分)			
15:45 ~ 16:45	<ユーザ事例講演> IT サービスマネジメントの定着に向けた取組み ~ISO20000 認証取得後の適用サービス拡大と人材育成~	関電システムソリューションズ株式会社 ソリューション事業本部 法人ソリューション事業部 法人第3営業グループ 福嶋 利泰 氏	関電システムソリューションズが取組んだITIL®調査~ISO20000認証取得の経緯と、その後のITサービスマネジメント定着に向けた様々な取組みを紹介

(3)第7回コンファレンス支援活動

itSMF Japan ブース説明員ボランティアとして参加

2. 会報誌活動

- 4月号 関西セミナー、支部活動ご案内
- 7月号 関西支部活動ご案内
- 10月号 関西支部活動ご案内
- 1月号 関西セミナー、支部活動ご案内

(外部渉外グループ) 国際渉外サブグループ業務に関する事業報告

国際渉外は、海外の外部組織に対する交渉窓口として、itSMF International、itSMF 各支部などの関連団体との交渉・交流、海外開催コンファレンスでの講演、パネルディスカッションなどへの参加を通じ海外の IT サービスマネジメント関連組織・団体との交流を図ってきました。

2010 年度活動:

1. 国際会議への出席

- 4/16・17 EAT(Editorial Advisory Taskforce)会議への参加
- 9/19 EAT(Editorial Advisory Taskforce)会議への参加
- 10/16・17 itSMF International 年次総会/支部会議出席
(マレーシア・クアラルンプール: 西野副理事長)
- 3/15・16 itSMF International Publication Meeting への参加

2. itSMF 他支部への対応

- 7/14 2010 itSMF Korea & ISACA コンファレンスへの参加
(西野副理事長)
- 9/20・21 Executive Forum (itSMF USA 2010 コンファレンス)への参加
- 11/8・9 itSMF UK コンファレンスへの参加 (富田理事長)

3. ITSM 関係者との会議

- 7/23 itSMF International 出版担当、TSO との意見交換
(第 7 回 itSMF Japan コンファレンス時)
- EXIN などの試験機関との意見交換

4. 書籍・試験の日本語化

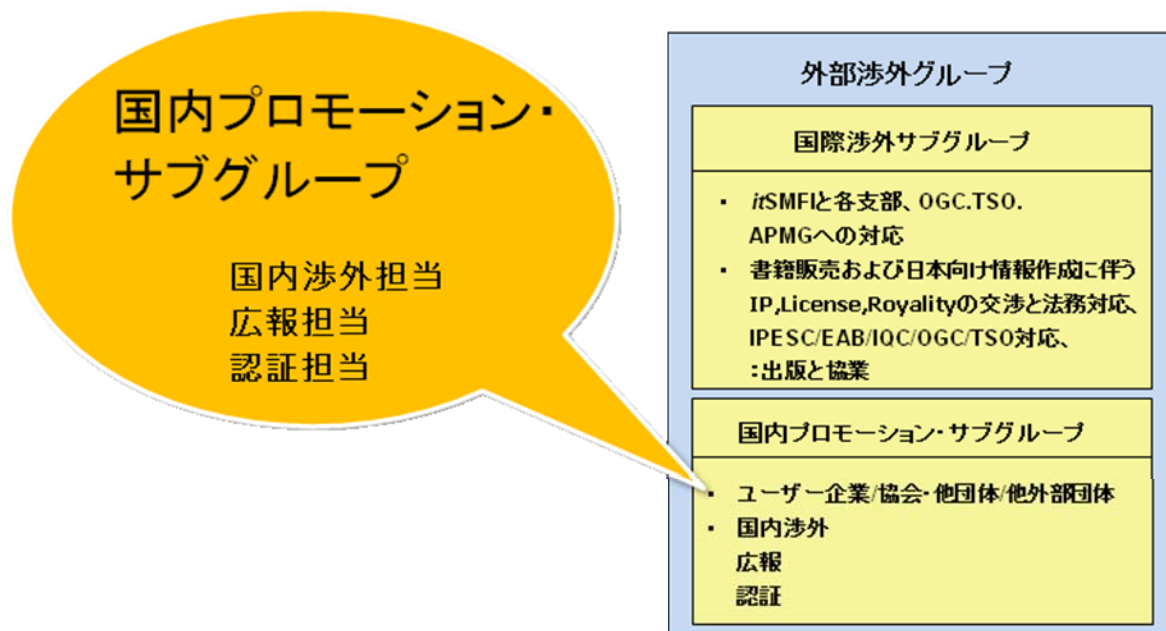
- TSO ITIL® Lite 日本語化の折衝
- VHP ITIL®V3 ファンデーションの日本語化の折衝
- VHP Service Catalog の日本語化の折衝
- APMG Intermediate 資格試験の日本語化の折衝

5. itSMF International への年次報告

- itSMF International に、年次報告書を送付し、2009 年度分支部分担金として ¥1,045,156 を支払いました。

(外部渉外グループ)
国内プロモーション・サブグループ
& 国内渉外業務に関する事業報告

国内プロモーション・サブグループは 2009 年度に設置されました。(下図参照)
広報、認証、国内渉外の事業を担当する理事に、ユーザ担当の理事を加えたグループです。ITIL®の普及活動に向けて担当事業の枠を超えて、横断的に活動するグループです。



国内プロモーション・サブグループのミッションと活動は、次の通りです。

ミッション

1. 政府・公共団体、業界団体、大学、企業ユーザ会に対して、IT サービスマネジメントの啓蒙、認知、共同研究・プロジェクトなどを通じて、itSMF Japan 組織の拡大及び財務の安定化を図る。
2. ITIL® の普及促進に向けての素材作り
3. ユーザ企業への会員拡大プロモーション
4. 各種マネジメント規格に対する itSMF Japan の対応施策の実施

活動

- ユーザ企業への会員拡大プロモーション
- 協会・団体・外部団体との連携

- セミナ(共同セミナーの開催)
- 講演会、セミナーへの相互講師派遣
- 会報誌への寄稿
- イベントの告知(メール、WEB)
- 共同研究
- 研究会・委員会への参加 など

国内渉外は外部団体及び企業に対する交渉窓口として、各種団体、企業との交流を通じて、IT サービスマネジメントの普及・啓蒙活動を促進しています。

2010年度の主な活動としては、itSMF Japan への外部の各種団体及び企業からの講演依頼をはじめとして、後援、共催、協賛等の要請、問い合わせに対応してきました。また、IT サービスマネジメントの普及・促進に繋がる活動として関連する団体、企業への訪問と意見交換を実施してきました。

2010 年度活動:

国内における ITIL®プロモーション活動の促進

1. プロモーション資料の企画、作成

- IT サービスマネジメント White Paper の作成と配布
第7回コンファレンス会場にて White Paper の配布
(2010年7月22日・23日)

1) ITSMWP-001 ITIL® V3 国内の適用事例東京海上日動システムズのITサービスマネジメント構築

著者:小林 賢也 東京海上日動システムズ株式会社

2) ITSMWP-002 やわらかい ITIL®～組織に見合った ITIL® V3 導入に向けて～

著者:塩田 貞夫 日本ヒューレット・パカード株式会社

3) ITSMWP-003 ITIL® V3 に取り組んでみませんか？

著者:藤原 達哉 株式会社 野村総合研究所

- White Paper 公開と募集

itSMF Japan HP で会員向けに公開(2010年9月30日)

White paper+事例を公開

新規 White Paper 募集

4) ITSMWP-004 IT ライフサイクルを支える IT サービスマネジメント活用方法

著書:不破 晴信 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

2. 講演依頼と、itSMF Japan への依頼・問い合わせに対応 (事務局、広報と連携)

- FISCとの意見交換会（2010年8月20日）
 - 大阪府立夕陽丘高等職業技術専門校にて講演（2010年7月29日）
 - (株)インターリスク総研からのヒアリング・リクエスト対応（2010年10月13日）
 - ITサービスマネジメント活用セミナー(ベンダでの基調講演)（2010年11月10日）
 - ITサービスマネジメントとソフトウェア資産管理についての取材
JIPDECの委託調査への協力。
（2011年1月19日）
 - 情報セキュリティ総合的普及啓発シンポジウムプログラムにて講演
（2011年1月28日）
3. 他団体への支援、連携に関する対応
- 富士通ファミリー会・LS研究会との連携
「ITIL® V3実装へのアプローチ」研究分科会での紹介
（2010年5月21日）於）東京海上日動システムズ(多摩)
「福岡セミナー」と同内容の事例紹介と、「ITSM導入のお薦め」PPTを使用して *itSMF* Japan の活動紹介を実施
4. 他団体への訪問と意見交換
- 加古川市との意見交換
（2010年11月30日）
 - ITIL® Managerの会への参加
（2010年12月21日）
5. その他
- 金融情報システムセンター(FISC)刊行誌に ITIL®記事掲載
（平成23年冬号）
itSMF Japan が取材を受けるとともに、4社の国内金融機関事例も紹介されている。
タイトル:「金融機関におけるシステム運用管理の現状とITIL®」
～ サービス指向の管理手法の提言 ～
 - 情報セキュリティ総合的普及啓発シンポジウムプログラムの講演成果報告書の提出
（2011年2月18日）
 - ITIL®学習への支援(視覚障害のある方への支援活動)
（2011年3月2日～）

(外部渉外グループ:国内プロモーション・サブグループ) 広報業務に関する事業報告

広報業務は、メディア等などに対する *itSMF* Japan の窓口として、活動・成果を発信し、IT サービスマネジメントの普及促進、及び *itSMF* Japan の認知向上を目的に主に以下の活動を実施しました。

2010 年度活動:

1. メディアへの広告記事掲載実施

- 日経BP社との連携により、*itSMF*Japan の活動やコンファレンスについて記事が掲載されました。

日経コンピュータ 6/9 号、6/23 号、7/7 号、7/21 号

日経情報ストラテジー 8 月号

日経 SYSTEMS 7 月号

日経コミュニケーション 7 月号

日経 NETWORK 7 月号

2. IT サービスマネジメント普及促進活動

- *itSMF* Japan の各業務の成果を集約し *itSMF* Japan が主催/後援するイベントなどでパンフレットを積極的に配布しました。

(外部渉外グループ:国内プロモーション・サブグループ) 認証業務に関する事業報告

認証担当は、ISO/IEC 20000 に関する動向を調査し、必要に応じて各種問い合わせや、協力要請への協力、会員への情報発信を主たる活動としています。2010 年度は関連団体(JIPDEC)との共催セミナーを開催し、ISO/IEC 20000 の改定動向について会員の皆様に対して情報発信しました。2011 年度も引き続き改定の動向を注視するとともに、必要に応じて連携、情報発信していきます。

2010 年度活動:

1. 審査機関へのヒアリング

2010 年 4 月、ISO/IEC 20000 の改訂に伴い、審査機関へのヒアリングを行いました。

2. ISO/IEC 20000 動向の把握

2010 年 5 月、新潟で開催された ISO/IEC 20000 の国際会議にて、今後の ISO/IEC 20000 シリーズの改定動向が明らかにされました。

規格要求事項である ISO/IEC 20000-1 は 2011 年初旬、ガイダンスである ISO/IEC 20000-2 は 2012 年に第2版が出される予定であることが発表されました。

ISO/IEC 20000-3,4,5,8 といった新たなパートも順次新設されており、充実される傾向がうかがえます。

3. 関連団体との共催セミナー開催

2010 年 5 月 31 日に日本情報処理開発協会(JIPDEC)との共催セミナーを開催し、ISO/IEC 20000 シリーズの動向と導入事例について情報発信しました。

会員、非会員を合わせて208名の参加者がありました。(会員は100名)

4. 各種問い合わせや協力要請への協力、支援

2010 年度は具体的な連携はありませんでした。

(ご参考)

■ISO/IEC 20000 規格への *itSMF* Japan 対応方針■

2005年12月15日にISO/IEC 20000(ITサービスマネジメント規格)が発行されたことに伴い、*itSMF* Japan に対して、本件に係わる問い合わせや、各種の協力要請が生まれました。そこで、*itSMF* Japan としては本件に対する基本的な対応方針を理事会にて以下の通り定め、その方針に則り対応を進めています。

【*itSMF* Japan 対応方針】

ITサービスに係わるISO/IEC 20000規格の普及については、ITサービスマネジメントの普及、促進という観点から *itSMF* Japan の理念とも一致しています。本件に係わる問い合わせや、各種の協力要請に対しては、ITサービスマネジメントの健全な普及、促進に資する観点から、また以下の点に留意しながら出来る範囲で協力、支援していくこととします。

(留意事項)

・*itSMF* Japan の立場の明確化

協力、支援にあたっては、NPO(特定非営利活動)法人という立場から中立性と客観性を十分意識し、また、直接的な利害に絡むようなことや特定の団体・組織・企業に与することの無いように公平性にも留意し、ITサービスマネジメント、ITIL®の知見者として対応します。

・支援、協力の対象となる団体、組織を明確化し、対象とする団体や組織の中立性、公平性、利害に絡まないことなどが保障されていることを条件とします。なお、ISO/IEC 20000に関する問い合わせや、各種協力要請に円滑に対応出来るように、認証担当理事のもとにISO/IEC 20000 関連検討チームを設置しています。

事務局業務に関する活動報告

事務局では、itSMF Japan の活動を円滑に推進するため事務局業務を改善するとともに、組織全体にわたる総会、理事会、ステアリングコミッティの運営、会員管理、経理業務および itSMF International / itSMF 各国支部を含む国内外の窓口としての役割を担いました。また、書籍の販売、コンファレンス・セミナーの開催、会報誌の発行、ホームページの管理、分科会の開催など itSMF Japan の活動を支援しました。

2010 年度活動:

1. 事務局の運営

- 2010 年度は以下の業務に主力を注ぎました。
- 会員の入退会、登録変更などへの対応
- 会員、一般からの問い合わせへの対応
- 経理業務
 - ・会計帳票類整理、各文書のファイリングの徹底
 - ・発注フローの徹底
- itSMF Japan 就業規則・パートタイム就業規則の作成と実施

2. 総会、理事会、ステアリングコミッティの準備と運営

3. 各委員会・ワーキングチームへの出席

各委員会・ワーキングチームの会議にも積極的に参加をして、その業務の推進がスムーズに行われるように事務局として参画しました。

4. セミナやコンファレンスの運営サポートを行い、円滑に実施できるよう努めました。

5. 書籍の管理と発送業務について

事務局は、書籍の在庫管理、書籍の受発注業務、納品書と請求書発行業務に加え、注文のあった会員、非会員および書店への書籍送付作業・売上の管理を行っています。

6. 「チャレンジ25」運動への参加

事務局内でのエコへの心がけとともに、コンファレンスをはじめとした、種々の活動のなかで今後とも地球温暖化防止への取り組みを行っています。

7. ステアリングコミッティ

理事会を補完するステアリングコミッティを 8 回開催しました。

理事会で提案された課題を掘り下げ、実行に移していく機関として活動しました。

ステアリングコミッティにおける今年度の主な活動報告：

➤ セミナとコンファレンス支援：

第 7 回 *itSMF* Japan コンファレンスおよびセミナ・シンポジウムの参加者募集および運営の支援を行いました。

➤ White Paper の取り組みにあたり WEB 掲載フローの討議を行い理事会に提案しました。

➤ *itSMF* Japan として他団体で講演する場合の内規の討議を行い理事会に提案しました。

➤ WEB 修正・更新について討議し理事会に提案しました。

➤ *itSMF* Japan の出版について討議しました。

【2010 年度ステアリングコミッティ】(アイウエオ順)

頂 俊 幸	稲 葉 慶 一 郎	伊 奈 信 也	井 元 祐 子
岡 田 雄 一 郎	小 林 一 朗	小 山 條 二	杉 原 欽 互
塩 田 貞 夫	島 津 光 伸	瀧 本 研 介	東 郷 茂 明
中 井 秀 有	西 川 正 隆	東 出 守 弘	三 浦 浩 幹
八 木 隆	安 岡 恵 一	若 山 郁 夫	加 治 礼 子 (事務局)

2010 年度理事会活動報告

2010 年度活動:

【理事会】

2010 年度は、9 回の理事会を開催し、各担当理事からの提起された課題を議論しました。

- ・ 理事長 1 名 副理事長 1 名 理事 13 名 計 15 名の体制となりました。
- ・ 2010 年度 辞任理事 2 名 新任理事 2 名

●理事会

第 62 回理事会	itSMF Japan 事務所	4/23
第 63 回理事会	itSMF Japan 事務所	5/14
第 64 回理事会	itSMF Japan 事務所	6/24
第 65 回理事会	itSMF Japan 事務所	9/1
第 66 回理事会	itSMF Japan 事務所	10/6
第 67 回理事会	itSMF Japan 事務所	11/1
第 68 回理事会	itSMF Japan 事務所	12/6
第 69 回理事会	itSMF Japan 事務所	2/2
第 70 回理事会	itSMF Japan 事務所	3/2

監査業務に関する活動報告

2010 年度活動:

1. 外部監査

➤外部監査を年 2 回実施しました。(監査報告参照)

2. 内部監査

➤2010 年度内部監査の実施(鳴坂理事:2011 年 4 月 8 日)

➤2010 年度外部監査立会い(2011 年 5 月 10 日)

2010 年度理事

【2010 年度理事】

- 富田 修二 【理事長】
- 西野 弘 【副理事長・外部渉外 G・国際渉外・事務局】
- 山口 真人 【副理事長・会員サービス推進・会報誌・WEB】2010 年 4 月辞任
- 佐久間 洋 【会員サービス推進 G・会報誌・WEB 】2010 年 4 月新任
- 渡部 芳邦 【事業化推進 G・出版・国際渉外・コンファレンス(2011)】
- 塩田 貞夫 【国内プロモーション・国内渉外】
- 鳴坂 仁志 【国内プロモーション】
- 小林 賢也 【国内プロモーション・認証】
- 渡辺 悟 【事業化推進・出版】
- 成瀬 泰生 【 세미나・試験/資格】
- 古川 公一 【コンファレンス(2010)・国内プロモーション・広報・事業化推進】
- 荒本 和彦 【関西支部】
- 明路 伸夫 【分科会・事業化推進】
- 豊田 智洋 【国内プロモーション】
- 松尾 直樹 【WEB・事業化推進】2010 年 4 月辞任
- 徳地 隆弘 【国内プロモーション】2010 年 4 月新任
- 若山 郁夫 【事務局長】

3. 2010 年度決算報告

決算報告書

平成22年度

自 平成22年 4月 1日

至 平成23年 3月31日

特定非営利活動法人 *it*SMF Japan

平成22年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

平成23年3月31日現在

特定非営利活動法人 itSMF Japan

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 手許現金	32,458		
普通預金			
三菱東京UFJ銀行赤坂見附支店 (No. 0961526)	83,193,862		
外貨普通預金			
三菱東京UFJ銀行赤坂見附支店 (No. 0078913)	120,142		
売掛金			
書籍販売	3,293,485		
商品			
書籍	16,913,106		
仕掛品			
書籍翻訳費用	1,436,400		
前払費用			
前払家賃 (株インテリックス)	380,000		
警備費 (セコム株)	15,750		
未収会費			
正会員	40,000		
流 動 資 産 合 計		105,425,203	
2 固定資産			
建物附属設備			
パーティション	299,511		
什器備品			
パソコン	13,608		
パソコン	13,608		
会議テーブル (長)	107,916		
椅子 (黒)	90,229		
ソフトウェア			
分科会DB	259,219		
DB作成費 (追加分)	139,563		
ホームページ	687,724		
保証金			
事務所保証金 (株インテリックス)	2,518,861		
長期前払費用			
事務所更新料(株インテリックス)	126,667		
固 定 資 産 合 計		4,256,906	
資 産 合 計			109,682,109

II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
書籍ロイヤリティ(itSMF International)	2,137,707		
書籍ロイヤリティ(itSMF UK)	703,032		
書籍ロイヤリティ(Van Haren Publishing)	193,497		
PDF書籍購入費用(TSO)	119,561		
翻訳費等(株)アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ)	1,644,612		
未払給与等	1,009,017		
未払費用			
倉庫利用料(イヌイ倉庫株)	43,470		
複合機使用料・印刷費(キャノンMJ株)	16,789		
運送費(ヤマト運輸株)	25,760		
社会保険料	130,234		
未払法人税等			
法人住民税(均等割)	70,000		
未払消費税			
消費税(確定分)	816,900		
流動負債合計		6,910,579	
固定負債合計		0	
負債合計			6,910,579
正味財産			102,771,530

平成22年度 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

平成23年3月31日現在

特定非営利活動法人 itSMF Japan

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	32,458	
普通預金	83,193,862	
外貨普通預金	120,142	
売掛金	3,293,485	
商品	16,913,106	
仕掛品	1,436,400	
前払費用	395,750	
未収会費	40,000	
流動資産合計		105,425,203
2 固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	299,511	
什器備品	225,361	
無形固定資産		
ホームページ	687,724	
ソフトウェア	398,782	
投資その他の資産		
保証金	2,518,861	
長期前払費用	126,667	
固定資産合計		4,256,906
資産合計		109,682,109
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	5,807,426	
未払費用	216,253	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	816,900	
流動負債合計		6,910,579
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		6,910,579
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	101,595,140	
当期正味財産増減額	1,176,390	
正味財産合計		102,771,530
負債及び正味財産合計		109,682,109

平成22年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

特定非営利活動法人 itSMF Japan

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費収入		
(1) 正会員会費収入	25,902,500	25,902,500
2 事業収入		
(1) セミナー開催等によるITサービス管理技術の普及事業収入		
① コンファレンス収入	51,421,500	
② セミナー収入	1,228,000	
③ 講演料収入	50,000	
(2) ITサービス管理に関する翻訳出版事業収入		
① 書籍販売収入	32,516,506	
② 書籍翻訳請負収入	1,241,779	
(3) WEBサイト及び会報等による広報事業収入		
① 書籍折込広告収入	262,500	
② 会報誌広告料収入	105,000	
(4) 分科会及び支部関連事業収入		
① 試験翻訳料収入	5,845,000	92,670,285
3 その他収入		
(1) 預金利息収入	31,977	
(2) 雑収入	81,000	
(3) 為替差益	103,668	216,645
経常収入合計		118,789,430
II 経常支出の部		
1 事業費		
(1) セミナー開催等によるITサービス管理技術の普及事業費		
① コンファレンス事業費	36,939,682	
② セミナー事業費	1,911,844	
(2) ITサービス管理に関する翻訳出版事業費		
① 出版業務事業費	32,613,553	
(3) WEBサイト及び会報等による広報事業費		
① 会報誌業務費	1,166,874	
② WEB費	2,130,270	
(4) 分科会及び支部関連事業費		
① 分科会費	24,810	
② 関西支部関連費	490,572	
③ 国際渉外費	2,859,334	
④ 国内プロモーション費	508,091	
⑤ 試験関連費	5,057,930	83,702,960
2 管理費		
事務局管理費	9,580,395	
給与手当	11,549,659	
法定福利費	1,573,100	
接待交際費	14,000	
会議費	142,306	
総会関連費	247,332	
租税公課	1,629,393	
支払手数料	96,285	
外為手数料	16,000	
雑費	2,719	
雑損失	60,000	
法人税等	70,000	24,981,189
経常支出合計		108,684,149
経常収支差額		10,105,281

(その他資金収支の部)			
Ⅲ その他資金収入の部			
	その他の資金収入合計		0
Ⅳ その他資金支出の部			
	その他の資金支出合計		0
	その他資金収支差額		0
当期収支差額			10,105,281
前期繰越収支差額			70,059,837
次期繰越収支差額			80,165,118
(正味財産増減の部)			
Ⅴ 正味財産増加の部			
1 資産増加額			
当期収支差額(再掲)		10,105,281	
棚卸資産増加額		18,349,506	
2 負債減少額		0	
増加額合計			28,454,787
Ⅵ 正味財産減少の部			
1 資産減少額			
棚卸資産減少額		25,730,694	
減価償却額		1,241,894	
長期前払費用減少額		190,000	
保証金減少額		115,809	
2 負債増加額		0	
減少額合計			27,278,397
当期正味財産増減額			1,176,390
前期繰越正味財産額			101,595,140
当期正味財産合計			102,771,530

(注) 資金の範囲は、現金預金・売掛金・未収会費・前払費用・仮払金・未払金・未払費用・未払法人税等・未払消費税としている。

4. 2011 年度理事・監事

2011 年度理事・監事

【2011 年度理事】

富田 修二

西野 弘

佐久間 洋

菊原 英武 (2011 年 4 月 21 日新任)

塩田 貞夫

鳴坂 仁志

小林 賢也

南 敏 (2011 年 4 月 21 日新任)

成瀬 泰生

古川 公一

明路 伸夫

荒本 和彦

豊田 智洋

徳地 隆弘

若山 郁夫

渡辺 悟 (2011 年 4 月 21 日辞任)

渡部 芳邦 (2011 年 4 月 21 日辞任)

【2011 年度監事】 任期 1 年

福島 達也

5. 2011 年度 事業計画

会員に関する計画

2011 年度活動計画:

2011 年度の会員活動計画としては、事業化推進委員会の会員拡大施策、国内プロモーションなどの会員拡大活動と並行して、会員へのサービス強化および会員の増加を図ってまいります。

会費収入の予算計画は、2010 年度実績並みとし、更に会員数拡大に向けて活動を展開してまいります。

また、itSMF Japan 会員へ提供する情報の強化および分科会などを通じた会員間の交流をより一層図ってまいります。

2011 年度収支予算:

会費収入計画…… ¥26,000,000

事業化推進グループに関する事業計画

事業化推進グループは、itSMF Japan が実施する事業に対し、既存事業の継続と見直し、新規事業の作成と立ち上げを行います。

事業化推進グループは、以下の2つの組織により活動を実施しています。

- 出版
- 事業化推進委員会

2011 年度活動方針：

2011 年度の主要な活動方針は以下の通りです。

- 中期計画の策定
- 2010 年度に実施した新規事業の検討を受けた、新規事業の策定
- ITIL® V3 普及をターゲットとして出版事業の促進

(事業化推進グループ)
事業化推進委員会に関する事業計画

本年度も昨年度に引き続き、会員の皆様への新規サービスの提供とIT サービスマネジメントの普及のための新事業およびタスクの実施を行っていきます。

2011 年度活動計画:

- itSMF Japan での会員サービスの向上に関する事業検討
- itSMF Japan スポンサーサービス事業の検討
- itSMF Japan と他団体との協力事業の検討
- itSMF Internatinal との協力事業の検討

2011 年度収支予算:

収支予算は、以下を予定しています。

1. 収入: なし
2. 支出:
 - 事業化推進活動費 ¥ 300,000

(事業化推進グループ)

出版業務に関する事業計画

2011 年度の事業計画として、下記活動を予定しています。昨年度に引き続き、出版活動全般のコーディネータは、外部の専門業者へ委託し、ITIL®書籍の翻訳・出版活動を円滑に進めてまいります。

2011 年度活動計画:

1. 書籍の出版: 日本語レビュー、印刷

	書籍名	出版時期
ITIL® V3 補完書籍	Service Catalog (VHP)	2011 年 7 月
	ITIL® Lite (TSO)	2011 年 9 月

2. 書籍の販売: TSO 書籍、itSMF UK 書籍、VHP 書籍

3. ITIL® V3 関連記事の寄稿取りまとめ

4. itSMF Internationalの出版事業への貢献: 海外への書籍の出版検討

2011 年度収支予算:

収支予算として、以下を予定しています。

1. 収入: 37,800,000 円

収入		内訳		備考
項目	金額	費目	金額	
書籍販売収入	37,800,000	V2 書籍	400,000	
		V3 書籍、PDF の販売	36,400,000	
		その他	1,000,000	
合計	¥ 37,800,000	合計	¥ 37,800,000	

2. 支出： 35,340,000 円

支出		内訳		備考
項目	金額	費目	金額	
ロイヤリティ	12,800,000	TSO 書籍	12,000,000	
		APMG	400,000	
		itSMF UK 書籍	400,000	
書籍購入費	2,800,000	VHP 書籍	1,000,000	
		TSO 書籍	700,000	
		PDF 購入	1,100,000	
書籍開発翻訳料	18,000,000	書籍翻訳、コーディネート費用	12,000,000	
		DTP 初版印刷費	6,000,000	
書籍販売経費	1,530,000	運送費、梱包資材費	400,000	
		倉庫利用料	650,000	
		カード決済手数料	480,000	
消耗品費、雑費	210,000	消耗品、雑費、国際電話	210,000	
合計	¥ 35,340,000	合計	¥ 35,340,000	

会員サービス推進グループに関する事業計画

会員サービス推進グループは、itSMF Japan の会員に提供するサービスの維持および向上を目的とし、会員の皆様の満足を得られるよう活動をしていきます。

2011 年度の会員サービスは、以下の通りです。

- コンファレンス
- セミナ
- 分科会
- 会報誌
- WEB
- 試験・資格
- 関西支部

2011 年度活動方針：

2011 年度の主要な活動方針は以下の通りです。

- コンファレンスに関する収支黒字化の維持
- 従来のセミナ提供形態に加え、新しいセミナ提供形態の強化
(WEB セミナのコンテンツ強化と会員への成果物の公開、首都圏・関西地区以外の地区でのセミナの実施)
- 円滑な分科会活動の推進
- 会報誌による有益な IT サービスマネジメント関連情報発信による会員の満足度の向上
- 会員が求める WEB 情報の充実とアクセス能力の向上
- ITIL® V3 普及促進のための試験提供への支援と研修事業者との連携
- 関西地区への会員サービスの向上

(会員サービス推進グループ) セミナー業務に関する事業計画

2011年度の事業計画として、以下の事業を計画・予定しています。

昨年度に引き続き、会場セミナー3回、ミニセミナー1回および地域セミナー1回の実施を計画しています。関係団体との共催セミナーも実施することを計画しています。また、各セミナーより選択して、WEBセミナーを年10回提供する予定です。

内容は、会員の皆様の関心が高い、ITIL® V3の内容や資格関連およびISO/IEC 20000を中心とした内容にて構成する予定です。

2011年度活動計画:

1. 会場セミナー開催

➤ 実施概要

回数 : セミナー3回、ミニセミナー1回、地域セミナー1回実施予定

場所 : 東京都内および地区(場所未定)

形式 : 1セミナーあたり、2~3セッション

➤ 目標参加者数 :

延べ550名 / 通年

(セミナー150名×3、ミニセミナー50名、地区セミナー50名)

2. WEBセミナー提供

➤ 上期3、下期7の計10コンテンツ提供予定

2011年度収支予算:

収支予算は、以下を予定しております。

1. 収入: ¥1,750,000

(内訳: セミナー参加費、スポンサー収入)

2. 支出: ¥2,815,331

(内訳: セミナー会場費、セミナー関連費、報告書作成費、WEBセミナー費、事務所経費、雑費)

(会員サービス推進グループ) 分科会業務に関する事業計画

本年も引き続き分科会活動を促進し、円滑に進めて行くための基盤整備、プロセス改善を行います。

2011 年度活動計画:

2011 年度の事業計画として、以下の施策推進に取り組みます。

1. 新規・既存分科会活動の推進

ユーザ企業の会員の方々がより参加し易くなるようにプロセス改善を引き続き行っていきます。

2. 各分科会の成果物の会員への公開と発表

- 2011 年 4 月時点での活動中の分科会は、継続的サービス改善(CSI)分科会、IT戦略とポートフォリオ分科会、プログラムマネジメント研究分科会、サービス妥当性確認研究分科会、インシデント・問題管理プロセス研究分科会、ビジネス貢献分科会、「公共団体、教育機関におけるITIL®を中心としたITガバナンス導入研究会」分科会の7分科会です。
- 分科会の研究成果については、コンファレンス、セミナーあるいはミニセミナーにて研究成果を発表していきます。またホームページ上でも会員の皆様向けに公開します。
- 第 8 回 itSMF Japan コンファレンスにおいても、各分科会が成果発表を予定しています。

3. 座長会の活動継続

座長会は、各分科会の活動情報共有の場として、各分科会の座長の参加を得て、継続して活動します。また、分科会運営に関する諸案件の解決に向けた活動につなげ、分科会運営に反映していきます。

2011 年度収支予算:

収支予算は、以下を予定しています。

1. 収入: なし

2. 支出:

- | | |
|----------|-----------|
| ▪ 分科会活動費 | ¥ 120,000 |
| ▪ 分科会関連費 | ¥ 80,000 |

合計 ¥ 200,000

(会員サービス推進グループ) 会報誌業務に関する事業計画

昨年度に引き続き、2011年度の事業計画として、下記の活動方針・内容にしたがい会報誌発行を予定しています。

2011年度活動計画:

1. 活動方針

- ビジネスの成功に貢献する IT サービスマネジメントに関する情報発信
- IT サービスマネジメント適用現場からの生の声を発信
- 魅力ある記事掲載による会員増加への貢献

2. 活動内容

- ITIL®関連最新情報の発信
- itSMF Japan だけでなく、他団体による IT サービスマネジメント発展に寄与する記事掲載
- 寄稿募集などによる会員の会報誌への参加機会の増加
- itSMF Japan の活動の可視化
- 海外動向の迅速な展開

3. 会報誌「ニュースレター」の発行

2011年4月(発行済み)、2011年7月、2011年10月、2012年1月 (計4号)

2011年度収支予算:

収支予算としては、以下を予定しております。

1. 収入:

・広告掲載費 ￥210,000

2. 支出:

・会報誌作成関連費 ￥1,200,000

・事例インタビュー費 ￥100,000

・アワード費 ￥550,000

合計 ￥1,850,000

(会員サービス推進グループ) WEB 業務に関する事業計画

itSMF Japan公式サイトを運営し、各種情報発信、情報交流に関するインフラを提供します。会員が求める情報の発信と、見やすく、わかりやすいページを作成することで、会員の満足度向上を図るとともに、新規会員増にも貢献していきます。

2011 年度活動計画:

1. WEB を利用した itSMF Japan 各種活動の情報掲載
 - イベントページにてセミナー、コンファレンス情報を提供
 - WEB セミナ、White Paper の追加掲載
 - 会報誌掲載
 - 新規分科会募集案内、分科会活動報告等分科会担当との連携
 - 新刊書籍案内等、出版担当との連携
 - 各種お知らせの掲載

2. スポンサー企業のアピール効果の向上
 - 従来の企業広告ページに加え、トップページに確保してあるバナー広告掲載領域へも企業ロゴを常時掲載することにし、スポンサ企業のアピール効果を高めることで広告収入を増加させます。

3. WEB サーバルレンタル、WEB ページのメンテナンス作業を行います。

2011 年度収支予算:

1. 収入:	
・企業広告掲載費	¥567,000
2. 支出:	
・WEB 制作管理費	¥1,660,000
・新規 Web(英文)制作費	¥100,000
・出版関係費	¥400,000
・セミナー関係費	¥126,000
・予備費	¥100,000
・事務局費	¥410,000
合計	¥2,796,000

(会員サービス推進グループ) 試験業務に関する事業計画

本年度も引き続き APMG、EXIN、itSMF International などと密な連携を行い、ITIL® の普及と会員の利益に資する活動を行っていきます。

2011 年度活動計画：

1. ITIL® V3 インターミディエイト試験のライフサイクルストリームの日本語化につき APMG と協議し、必要性の高いものから順次着手していきます。
2. 教育事業者との会話も継続するとともに、ITIL® 普及に向けた施策を検討し、実施していきます。
3. 昨年同様、試験制度についての最新動向のキャッチと、会員へのフィードバックとして、itSMF Japan 公式ホームページでの情報提供などを継続して行います。

2011 年度収支予算：

2011 年度は以下の予算を予定しています。

1. 収入： ¥1,250,000
(内訳：試験翻訳・レビュー作業費)
2. 支出： ¥1,510,000
(内訳：試験関連費用、試験翻訳外部委託費、雑費)

(会員サービス推進グループ) 関西支部業務に関する事業計画

2011年度の事業計画として、2010年度と同様に関西エリアでの *itSMF* Japan 普及活動を目的としてセミナーの開催および分科会活動における支援業務などを実施します。具体的には、下記事業を計画・予定します。

2011年度の事業計画

1. イベント活動
 - セミナ(関西セミナー)の開催 2回
 - 第8回コンファレンス支援活動
2. 分科会活動支援
 - 新規分科会活動支援
3. 会報誌活動(ニュースレターなど)
 - 各号に関西支部活動に関する情報を寄稿

2011年度収支予算:

2011年度は以下の予算を予定しています。

1. 収入:なし
2. 支出:(別途記載)

◆ セミナ費(会場費、資料印刷代 等)	¥550,000
◆ <u>旅費・交通費(セミナー講師派遣費用 等)</u>	<u>¥ 50,000</u>
合計	¥600,000

外部渉外グループに関する事業計画

外部渉外グループは、国内外の外部組織・団体に対する交渉・交流窓口として、itSMF Japan の活動を円滑に推進させるとともに、他組織・団体との協力関係のもと活動を実施します。

外部渉外グループは、以下のサブグループにて活動を行います。

- 国際渉外サブグループ
- 国内プロモーション・サブグループ

2011 年度活動方針：

2011 年度の主要な活動方針は以下の通りです。

- 海外の他組織・団体との良好な関係の構築
- 効果的な海外からの情報収集
- 国内の他組織・団体を通じた itSMF Japan の活動拡大
- 国内の他組織・団体を通じた会員拡大プロモーション

(外部渉外グループ) 国際渉外業務サブグループ業務に関する 事業計画

国際渉外は、海外の外部組織・団体に対する交渉・交流の窓口として、国際会議への出席、itSMF International/itSMF 他支部との交流、ITSM 関係者との会議などを通じ、itSMF Japan と海外の ITSM 関連組織・団体との良好な関係を形成していきます。

2011 年度活動計画:

1. itSMF 国際役員会・支部会議への出席などを通じ、情報の収集、日本支部として利害関係機関への要望及び支部活動の広報などに努めていきます。
2. 韓国、台湾など東アジア地域を初めアジア地域の支部との交流や合同の要望などの活動をしていきます。
3. 海外 itSMF 支部のコンファレンスなどに参加し、交流を図ります。
4. 海外の IT サービスマネジメント関連情報を収集します。

2011 年度収支予算:

2011 年度は以下の予算を予定しています。

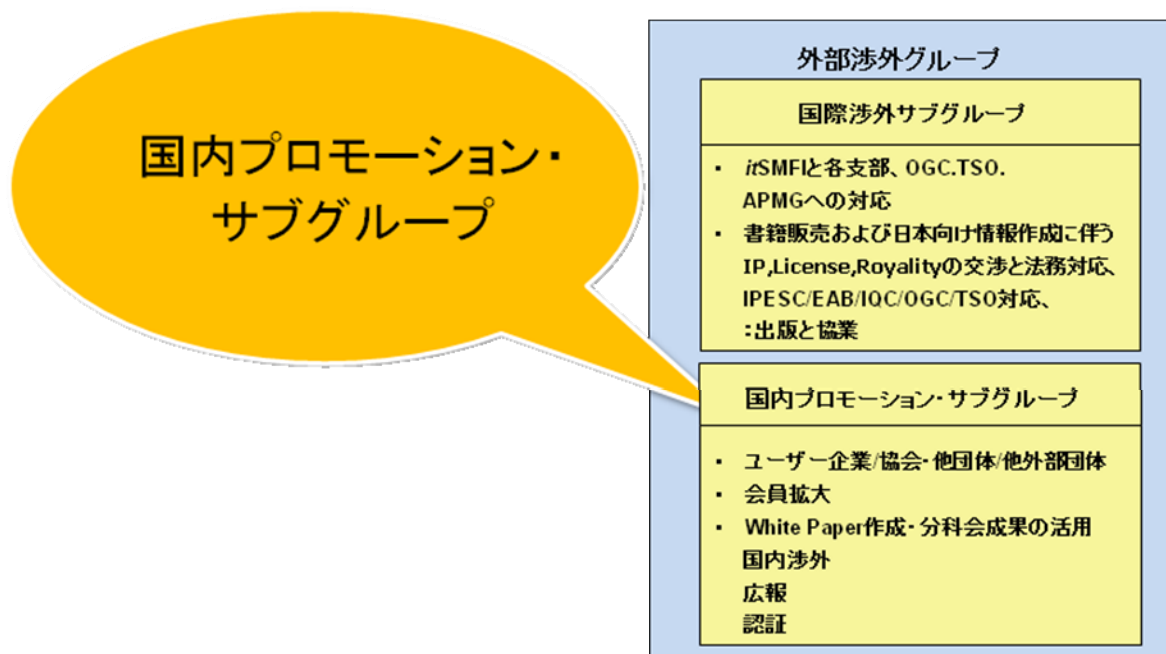
1. 収入: なし
2. 支出: 国際渉外活動費
 - (内訳)
 - ・海外旅費交通費 ¥1,150,000
 - －EAT 出席
 - －アジア支部 コンファレンス参加
 - －年次総会及びチャプターリーダーシップ会議
 - ・接待交際費 ¥100,000
 - ・itSMF 支部分担金 ¥1,200,000
 - 合計 ¥2,450,000

(外部渉外グループ)

国内プロモーション・サブグループ業務に関する 事業計画

2009年度10月より、新しく外部渉外グループとして、国際渉外サブグループと国内プロモーション・サブグループを設けました。(図参照)

広報、認証、ユーザ担当、国内渉外の事業を担当する理事が、ITIL®の普及活動に向けて担当事業の枠を超え、横断的に活動するグループです。



国内プロモーション・サブグループのミッションと活動は、次の通りです。

ミッション

1. 政府・公共団体、業界団体、大学、企業ユーザ会に対して、ITサービスマネジメントの啓蒙、認知、共同研究・プロジェクトなどを通じて、itSMF Japan 組織の拡大及び財務の安定化を図る。
2. ITIL® の普及促進に向けての素材作り
3. 会員拡大プロモーション
4. 各種マネジメント規格に対する itSMF Japan の対応施策の実施

活動

- 会員拡大プロモーション
- 協会・団体・外部団体との連携

- セミナ(共同セミナーの開催)
- 講演会、セミナーへの相互講師派遣
- 会報誌への寄稿
- イベントの告知(メール、WEB)
- 共同研究
- 研究会・委員会への参加 など

2011 年度活動計画:

2011 年度の主な活動として、下記を予定しています。

- 会員拡大プロモーション
- ITIL® V3 関連 White Paper のプロモーション
 - 執筆者の募集活動
 - 投稿数の増加(現在 4 件→10 件程度)
- ITIL®関連の業界団体・企業との連携強化
 - セミナ(共同セミナーの開催)
 - 企業によるイベント、セミナーへの講師派遣
 - 会報誌への寄稿
 - 相互イベントの告知(メール、WEB)
 - 共同研究
 - 企業による研究会・委員会への参加
 - 啓蒙活動、会員獲得への活動
- 公共団体への ITIL®普及・啓蒙活動
 - ITIL®啓発セミナーの提供

2011 年度収支予算:

収支予算としては、以下を予定しています。

1. 収入: なし

2. 支出:

■ 国内渉外活動費	¥ 200,000-
■ 他団体との交流費	¥ 200,000-
■ 書籍購入費	¥ 20,000-
■ 旅費	¥ 50,000-
■ 雑費	¥ 30,000-
■ IT 協会会費	¥ 120,000-

合計 ¥ 620,000

(外部渉外グループ:国内プロモーション・サブグループ) 国内渉外業務に関する事業計画

itSMF Japan における外部団体及び企業に対する交渉窓口となり、折衝などを行い、有益な情報を供給あるいは入手し、共有化することにより itSMF Japan の活動をサポートしていきます。2011 年度の事業計画として、下記事業を計画・予定しています。

2011 年度事業計画：

1. IT サービスマネジメントに関連する国内企業、関連団体などの外部組織と折衝、連携をはかり、ITIL®の普及・啓蒙活動を推進していきます。
 - NPO としての活動許容範囲内において、国内の企業、団体との交流を図っていきます。(広報、事務局と連携) 例：大学関係、関係官庁、IT 企業など。
2. 国内企業・関連団体との折衝・連携を通じた ITIL®を普及・啓蒙活動を支援していきます。(普及・啓蒙活動は itSMF Japan としての講演も含み、広報、事務局と連携していきます。)
3. 地方における ITIL®の普及・啓蒙活動を支援するための交渉窓口として活動します。
4. 分科会からの外部組織・団体との交流依頼を受けて、itSMF Japan の交渉窓口となり、渉外対応を行います。

2011 年度収支予算：

収支予算は、国内プロモーション・サブグループの予算として組み入れます。

(外部渉外グループ:国内プロモーション・サブグループ) 広報業務に関する事業計画

広報業務としては昨年度と同様に、メディア等に対する *itSMF* Japan の窓口として、*itSMF* Japan の活動・成果を発信し、IT サービスマネジメントの普及促進、及び *itSMF* Japan の認知向上を目的に以下の活動を計画しています。

2011 年度活動計画:

1. 記事執筆活動、及び取材対応によるメディア等を活用した情報発信
2. 非営利団体などとの連携を通じた、IT サービスマネジメントの普及・啓蒙活動
3. パンフレットの最新化

2011 年度予算:

収支予算としては、以下を予定しています。

1. 収入 : なし
2. 支出 : 広報費 ¥600,000

事務局業務に関する活動計画

事務局では、事務局の活動基盤の人的、活動内容的、質的な面をより充実させていきます。2011年度は、より一層の事務作業の効率化と事務局職員が継続して業務を行える環境整備をめざし、以下の業務を主に行います。

2011年度活動計画:

1. 事務局業務体制の強化
 - 会員の入退会、登録変更などへの対応
 - 会員、一般からの問合せへの対応
 - 書籍の販売業務
 - 業務マニュアルの整備
 - 会計帳票類整理、各文書のファイリング、発注フローの徹底
 - WEB ページ充実のサポート
 - セミナ、コンファレンス運営サポート
 - 海外 itSMF や出版関連団体との円滑な業務連携支援
 - 国内関連団体との連携支援
2. 総会、理事会、ステアリングコミッティの準備と運営
3. 活動の支援
 - 事務所を活用し、理事と会員の活動の活性化をサポートします。
4. ステアリングコミッティ
 - ステアリングコミッティを必要時開催し、組織的な検討課題を議論し、理事会に提起していきます。

2011年度収支予算:

1. 収入: なし

2. 支出:

人件費・通勤交通費	¥11,800,000	
事務所経費	¥6,707,110	
事務委託費、管理諸費	¥2,182,200	
、	合計	¥20,689,310

2011 年度理事会活動計画

【理事会】

- 昨年同様、年 9 回開催します。
- 2011 年度は、各担当理事からの活動提案・提示された課題などについて議論を深め、活動推進・組織運営と課題解決に向けてより一層取り組みます。
- 外部監査(年 2 回)を実施し、より一層のアカウンタビリティを果たしていきます。

監査業務に関する活動計画

1. 外部監査

- 年 2 回外部監査を実施し、より一層のアカウンタビリティを果たしていきます。

2. 内部監査

- 外部監査とは別の視点で事務局監査を行います。
- 監査報告書のフォロー
監事からの監査報告書を受け、事業の健全な発展に寄与するフォローを行います。

6. 2011 年度予算

【収入の部】

項目	2010 年度 予算	2010 年度 実績	達成率	2011 年度 予算案
会費収入	28,000,000	25,902,500	92.51%	26,000,000
書籍販売収入	41,900,000	32,516,506	77.61%	37,800,000
書籍折込広告収入	300,000	262,500	87.50%	0
書籍翻訳請負収入	0	1,241,779	-	0
セミナー収入	50,000	1,228,000	2456.00%	1,750,000
コンファレンス収入	45,580,000	51,421,500	112.82%	43,670,000
WEB 広告料収入	900,000	0	0.00%	567,000
会報誌広告料収入	420,000	105,000	25.00%	210,000
講演料収入	0	50,000	-	0
試験翻訳料収入	11,648,000	5,845,000	50.18%	1,250,000
受取利息	20,000	31,977	159.89%	30,000
雑収入	0	81,000	-	0
為替差益	0	103,668	-	0
収入合計	128,818,000	118,789,430	92.21%	111,277,000

【支出の部】

項目	2010年度 予算	2010年度 実績	執行率	2011年度 予算案
出版業務費	41,890,000	32,613,553	77.86%	35,340,000
세미나費	2,340,000	1,911,844	81.70%	2,815,331
コンファレンス費	39,930,000	36,939,682	92.51%	39,650,000
分科会費	254,000	24,810	9.77%	200,000
試験関連費	10,100,000	5,057,930	50.08%	1,510,000
関西支部関連費	1,000,000	490,572	49.05%	600,000
WEB 費	2,965,000	2,130,270	71.85%	2,796,000
広報費	500,000	0	0.00%	600,000
会報誌業務費	2,270,000	1,166,874	51.40%	1,850,000
国際渉外費	3,350,000	2,859,334	85.35%	2,450,000
国内プロモーション	430,000	508,091	118.16%	620,000
中期計画・事業化推進	0	0	-	300,000
事務局管理費	20,926,560	21,026,104	100.48%	20,689,310
法定福利費	1,500,000	1,573,100	104.87%	1,700,000
会議費	150,000	156,306	104.20%	150,000
総会関連費	200,000	247,332	123.67%	250,000
租税公課	1,600,000	1,629,393	101.84%	1,030,000
支払手数料	200,000	112,285	56.14%	110,000
雑費	5,000	2,719	54.38%	100,000
雑損失	0	60,000	-	0
法人税等	70,000	70,000	100.00%	70,000
活動予備費	1,000,000	103,950	10.40%	0
支出合計	130,680,560	108,684,149	83.17%	112,830,641